

(1)児童の体力の現状

- 握力について、昨年度は男女とも多くの学年で県および全国の平均より下回っていたが、今年度は男子の4年生以上が市の平均を上回り、向上が見られた。
- 立ち幅跳びも同様に、昨年度は多くの学年で下回っていたが、男子は3年生以上、女子が全学年、市の平均を上回り、向上が見られた。
- 上体起こしについて、昨年度は男子に上昇傾向が見られたが、今年度は女子にも上昇傾向が見られ、男子が3学年、女子が4学年、市の平均を上回った。
- 長座体前屈については、昨年度と同様に、男女とも全学年、市の平均を下回っており、柔軟性の欠如が見られた。
- 男子においては、50M走が4学年、ソフトボール投げが5学年で市の平均を下回った。
- 女子においては、握力、反復横跳び、シャトルランが5学年で市の平均を下回った。

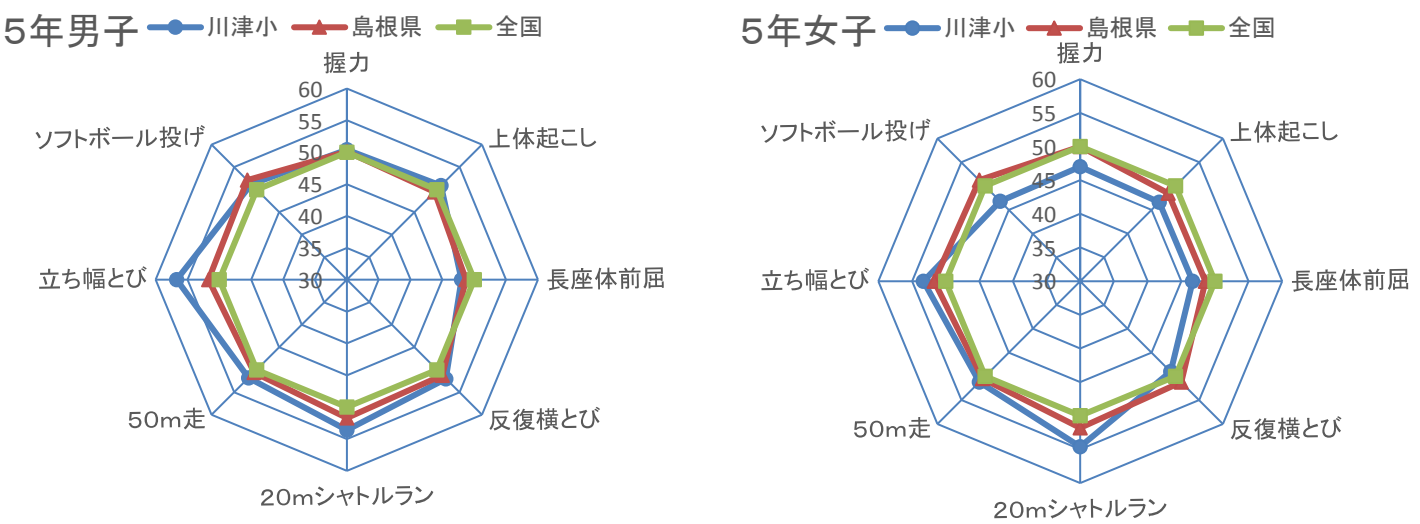
(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

- 全学年における運動実施頻度の向上を図った結果、全学年とは行かなかったが、男女とも半数の3学年で「毎日運動する。」と答えた児童比率が市の平均を上回った。
- 意識調査において、運動好きの児童の増加を図った結果、5年生の男女いずれも90%が「運動が好き」と答えており、特に女子は、県および全国の平均を上回った。
- 体育の学習時に、本校の課題である柔軟性や跳躍力、投力の向上につながる運動を意図的に取り入れ、それぞれの向上を図ったが、立ち幅跳びの結果に見られる跳躍力以外は市の平均と比べて向上が見られなかった。

(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
- ・体育の時間の準備運動に全学年、ストレッチや柔軟体操などを毎時間取り入れるよう申し合わせ、柔軟性の向上に全校で取り組む。
 - ・各領域で身につけたい技能(逆上がり、壁倒立、開脚跳び、台上前転、二重跳びなど)を選び、全校で毎学期、達成率を確かめながら全学年で継続した指導に取り組むことを通して、運動への意欲と運動能力の向上を図る。
- ②地域や家庭との連携による取組
- ・これまでと同様、夏休みと冬休みに、家庭での親子の体力作りとして「ジョギング」「ストレッチ」「なわとび」「サーキット」などに取り組む。その際、チャレンジシートや認定証を活用して、取組の充実を図る。
 - ・地域のスポーツ少年団の活動に対して教員も関心をもち、児童への励ましの言葉や応援を送ることによって、より意欲的に取り組めるよう配慮する。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
- ・「食べる」「運動する」「睡眠をとる」の三原則の大切さを各学年の発達段階に応じて指導し、家庭にも便り等で啓発する。
 - ・年間指導計画をもとに、栄養士との連携・協力を図って食育を進める。
- 調査実施者数(人) 1年(男子64・女子55) 2年(男子55・女子48) 3年(男子65・女子55)
4年(男子42・女子48) 5年(男子51・女子36) 6年(男子51・女子43)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

